

枕崎駅舎建設期成会が発足

市民の力で 枕崎駅に駅舎を



4月27日、枕崎商工会議所に設置された募金箱

日本最南端の始発・終着駅である枕崎駅は、駅舎のない無人駅です。平成18年に枕崎駅が南へ約100m移動したと同時に駅舎も解体され、本市のシンボルがひとつ消えてしまいました。

その後、枕崎駅をまちの財産としてまちづくりにつなげていこうと平成20年に「枕崎駅を想う会」が発足、平成21年には観光拠点として位置づける「枕崎駅前観光案内所」がオープンしました。

駅舎復活を望む声

しかしながら、このような状況の中でも「日本最南端の始発・終着駅に駅舎がないのは寂しい」との声や市民等からの要望が数多く出ています。市としても、昨年の九州新幹線全線開業や最北端の始発・終着駅を有する稚内市との友好都市締結など、効果的な観光振興策や地域経済活性化に向けた取り組みを積極的に推進していく中で、南の玄関口として、本市のシンボルのひとつ枕崎駅舎を復活させようと、市長を発起人として駅舎建設に立ち上がりました。

駅舎建設期成会が発足

このような認識のもとに



枕崎駅旧駅舎

旧駅舎はなぜ解体されたのか

旧駅舎は南薩鉄道を行っていたいわさきコーポレーションの所有物でした。1984年に南薩鉄道が廃止となり、また、乗客減によるJRの撤退やタイヨーの郊外移転といった話が取りざたされる中、いわさきコーポレーション、JR、タイヨー、市の4者が調整に奔走した結果、駅周辺の再開発による活性化を中心に取り組むこととなり、駅舎をやむなく解体することになりました。

寄附の方法

賛同いただける各事業所の窓口に募金箱設置の協力をお願いします。市民の皆さんの協力はもちろん、市外にお住まいの枕崎ゆかりの方にも枕崎市ふるさと応援寄附金（ふるさと納税制度）を活用し、寄附をいただけるよう呼びかけをお願いします。ご連絡いただければ、寄附申込用紙を郵送させていただきます。

■問合せ 企画調整課企画調整係
TEL 72-1111（内線225）

魅力ある商店街づくりへ

商店街活性化に補助制度

空き地・空き店舗を 利用した新規出店に

商店街団体や新規出店者が商店街の空き地・空き店舗を賃借して新規出店する場合には、賃借料及び改装費の一部を補助します。

■対象事業
・空き店舗を活用し、新たに新出する店舗や駐車場に係る賃借料
・空き店舗の改修及び改装

■新商品開発やイベント、 施設整備に

新商品開発やイベントなどのソフト事業や街路施設整備などのハード事業を行う商店街団体に補助します。

・老朽空き店舗解体及び撤去のための空き地の整備など

■補助対象者 新規出店者
※商工業者等を構成員として設立された法人または団体

■対象事業

・ソフト事業 事業費30万円以上で新商品開発、地域資源活用、伝統文化復活、後継者育成、IT・情報化推進、地域通貨・共通商品券等発行、イベントなどの事業

・ハード事業 事業費300万円以上で街路施設整備事業、駐車場等施設整備、交流施設等整備、イベント広場等整備などの事業

■補助対象者 商工業者等を構成員として設立された法人または団体

■問合せ 水産商工課商工振興係
TEL 72-1111（内線421）

チャレンジショップ出店者募集

お魚センターに 出店してみませんか

商店街等のにぎわいと活性化を図るため、新たに事業を始める方を対象に、チャレンジショップの出店者を募集します。チャレンジショップは、お魚センター内の空き店舗を利用して行います。

■補助内容 家賃補助（月額家賃全額 最大24か月）

■補助対象者 市内の商店街またはお魚センターに出店

計画を持っている小売業、サービス業、飲食業等の出店希望者で、お魚センター内の空きテナントを活用する法人または個人

■問合せ 水産商工課商工振興係
TEL 72-1111（内線421）

郷土読み物資料集 「枕想子(まくらそうし)」完成

ふるさとの心を育む枕崎市郷土読み物資料集「枕想子」を市教育委員会が作成し、市内全小・中学校及び公共施設等に配布しました。この「枕想子」には、「枕崎を誇りに思う子どもたち」という意味があります。



▲枕想子の表紙

内容は、カツオ遠洋漁業の父といわれる原耕や、桜山尋常高等小学校（現桜山小学校）を卒業し玉川学園を創設した故・小原國芳先生の伝記のほか、山崎敏廣さんが36代木村庄之助を襲名するまでの物語、児童生徒の作文など全10編からなっています。

3月28日に桜山小学校にある小原國芳先生顕彰の碑の前で行われた贈呈式では、山口歩夢くん（写真左から2番目・桜山小5年）が「枕崎の伝統や文化、大先輩たちのことを学んで、立派な枕崎っ子になります」とあいさつしました。



笑ってわごなっど！ 合同筋トレサロンに300人

合同筋トレサロンが4月10日、健康センターで行われました。「筋トレサロン」は、介護予防事業の一環として健康指導員の指導のもと市内14か所で実施している教室で、今回、各教室から約300人が集まり、それぞれ健康体操やストレッチなど、日ごろの成果を発表しました。

